

大阪大学図書館報

Vol. 3 No. 1/2 Jan./Mar. 1969

大学図書館の管理

——特に文献の集中化と分散化を中心として——

坂 本 幸 哉

大学における教育、研究用図書の管理方式を考えると、図書館がそれらを全面的に集中しその管理に当る、いわゆる集中管理方式と、図書館のほかに各教室が図書室またはそれに近いものを持ち独自にその管理に当る、いわゆる分散管理方式とがある。編集部から与えられたテーマの文献の集中化は前者を、文献の分散化は後者を意味すると思われる。

集中管理かあるいは分散管理かの問題は大学の図書館行政上の重要事項としてしばしば関係者の間で論議されてきた。これについては、全般的にみて集中管理の方がより有利である、というのが大方の意見である。

集中管理を有利とする第一の理由として、分散管理では各教室が独自に購入図書の決定を行うので、しばしば教室間に不必要な重複購入がみられ無駄と思われる出費がなされる点が指摘されている。この無駄は図書の選択、購入の窓口を一カ所、即ち図書館にしぼり、全学的な立場から集書活動を行うことによってある程度は防ぐことができる、というのが集中管理を主張する人の意見である。

集中管理を有利とする第二の理由として、教室所蔵図書の利用上の不便があげられている。教室の図書は教室の必要から教室予算によって購入されたものだけに、教室の専有物とみなされる傾向がある。その結果他の教室の教職員や学生の利用に対してはいきおい閉鎖的となり、その閲覧、貸出を歓迎しない教室が多い。このような状態は全学的な図書の利用効率の上からみて望ましいとはいえず、少くとも校費で購入された図書については大学の共有財産として誰もが遠慮なく利用できるように管理されるべきであり、そのためには集中管理をとるのがよいとする考え方である。

集中管理を有利とする他の理由として、分散管理で各教室が個々に図書館務業の要員をおき、独自に図書の整理、運用に当ることの不経済、非能率が指摘されている。集中管理を主張する人によると、これらの要員や業務を集中化することによって作業の重複を防ぎ、人手を節約し、さらに全学的に一貫して図書館業務を行うことができるという。

以上集中管理のプラス面をみたが、一方集中管理にもマイナス面があることは否定できない。

その最も大きなものは「図書が手許に無くなることの不便」である。この「不便」は集中管理反対の最も強力な論拠となっている。集中管理かまたは分散管理かの問題はこの「不便」をどの程度に評価するか、即ちこの「不便」を集中管理のプラス面以上のものとするか、あるいは集中管理のもつプラス面をより大きく評価するかによって決まるといえよう。それと同時にこの問題は教職員の図書館に対する認識、図書館の充実度、図書館と各教室との距離、大学の図書館行政の歴史・伝統などの事柄にも関係してくる。

ここで私の関係する中之島分館について一言ふれたい。中之島分館は医学部、歯学部、医・歯両学部附属病院、蛋白研、微研を対象とする中之島キャンパスの中央図書館である。この図書館の特色の一つは、雑誌については完全な集中制をとっていることである。即ち、中之島キャンパスで受け入れる雑誌は新刊、Back Number を問わずすべて中之島分館におき、原則として校費による教室での雑誌購入は認めないことにしている。従って中之島分館へくれば中之島キャンパスで所蔵しているあらゆる雑誌を一カ所で利用できることになる。

このことは集中管理による最も大きな利点であるといえる。しかしこの雑誌の集中化にも多少の問題はある。図書館と他の建物との位置関係からくる利用の不便はその一つであり、例えば、図書館から最も離れている医学部附属病院の教職員が雑誌を読みたい場合には、その都度7～10分間も歩かなければならない。

中之島分館における雑誌の集中管理はこの図書館の前身である医学部図書館の時代から実施されており、雑誌の効率的な利用及び不必要な教室間の重複購入の防止による図書購入費の有効な運用を計るという当初の目的は現在も十分果されている。これは集中管理の成功した例である。

この数年間における本学図書館の充実、発展は目ざましいものがある。微研、産研に続く工学部の吹田移転にともない、吹田キャンパスにも立派な図書館が建つ予定である。そろそろ本学でも教職員、学生、図書館が一体となり、研究及び教育活動に密着した図書館行政のあり方を真剣に考えるべき時期に来ていると思う。集中管理かまたは分散管理かの問題は、その際の最も大きな課題といえよう。

(中之島分館長)

図書の利用にも大学の特色が出る

阪大は「自然科学」中心、利用されない「語学」

下表は、近畿地区国公立大学図書館協議会加盟各館の昭和42年度における利用統計（年間利用冊数）を集計し、百分率で表わした相対度数表であるが、この表をながめてみよう。

その前に、前提事項として留意すべきことがある。→(1)阪大は、本館開架室の利用度のみをあげている。しかも本館開架室の利用者の91%は教養課程学生である。(2)本館開架室は完全開架制をとっており、館内閲覧はチェックの対象外となっている。即ち、館外帯出のみの数字である。(3)「総記」部門は、年鑑、事典、数表、人名録などのいわゆるレファレンス・ツールが中核で、これらは、おおむね「禁帯出」扱いになっているので、この部門の利用は、数字に表われたものよりもはるかに大きいと考えられる。従って、本学の順位は、「総記」を除いている。

開架図書の利用度は、それぞれの大学のカラーを反映している。

京都大学、大阪市立大学は、いずれも歴史が古く、人文・社会科学を中心に累積された業績をもつ大学であるので、両大学とも年間利用冊数は、「社会科学」が第1位である。これに比べ

て本学は、沿革的に医、理、工3学部からなる大阪帝国大学を母体に発展してきたためか、「自然科学」が44.1%を占め2位以下を引き離している。また、商船大学では、「工学」が全体の半数近くを占め、外国語大学では、「文学」「語学」を併せると44.9%となり、女子大学では、「文学」が過半数を上まわっていることなどは、我々がこれらの大学に対して抱いている漠然としたイメージに合致する。

全般的にみて、若干の例外はあるものの、「社会科学」「自然科学」「文学」が、それぞれベスト3に入っている。

一方、本館開架図書の各部門への投下予算と利用度との比較、即ち、予算の効率について考えてみよう。下表から、大体、投下予算の順位と利用比率のそれとはパラレルであるが、14.5%（第2位）の予算を投じている「語学」が、利用度が非常に低く0.7%（第9位）である。「語学」部門は、他大学の総利用冊数平均をみても第8位である。

開架図書年間利用冊数調査（相対度数）表

昭和42年度

| 部門名 | 大学名 | | 京大 | 大市大 | 京府大 | 大府大 | 神大 | 奈教大 | 大女大 | 奈女大 | 神船大 | 大外大 | 総利用冊数平均 | 備考 |
|--------|----------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|------------|
| | 大阪大学 | 大阪大学 | | | | | | | | | | | | |
| | 予算額 | 利用度 | | | | | | | | | | | | |
| 0 総記 | (%) 35.5 | (%) 1.4 | (%) 5.9 | 1.1 | 3.1 | ① 25.0 | 12.3 | ③ 20.3 | ② 15.4 | ③ 9.9 | 5.4 | ③ 14.3 | ④ 8.5 | 1～9部門以外のもの |
| 1 哲学 | ④ 4.1 | ④ 9.2 | 5.8 | 5.4 | 9.6 | 4.2 | 5.4 | 7.2 | 4.0 | ② 10.9 | 3.5 | 7.5 | ⑥ 6.3 | |
| 2 歴史 | ④ 4.1 | ⑥ 3.9 | 8.7 | 6.6 | 6.7 | 4.7 | 7.4 | 10.3 | ⑧ 8.9 | 5.0 | 6.1 | 9.6 | ⑤ 6.7 | |
| 3 社会科学 | ③ 9.5 | ⑧ 15.2 | ① 37.5 | ① 43.0 | ③ 11.2 | ③ 15.0 | ③ 15.6 | ① 23.2 | 7.3 | 7.9 | 7.0 | 18.9 | ① 24.9 | |
| 4 自然科学 | ① 23.8 | ① 44.1 | ② 19.9 | ② 16.5 | ② 17.0 | ② 20.5 | ② 15.7 | 11.5 | 5.0 | 6.9 | ② 17.5 | 1.5 | ③ 20.8 | |
| 5 工学 | ⑧ 2.4 | ④ 4.1 | 2.9 | 3.2 | 1.8 | 11.4 | 0.8 | 1.2 | 0.2 | 1.3 | ① 42.9 | 0.1 | ⑦ 4.6 | |
| 6 産業 | — | ⑩ 0.1 | 0.9 | 4.1 | 6.4 | 4.1 | 0.4 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 3.7 | 1.3 | ⑩ 1.8 | |
| 7 芸術 | ⑦ 3.0 | ⑧ 1.1 | 2.0 | 1.8 | 5.8 | 1.7 | 4.4 | 2.8 | 2.4 | 3.5 | 2.6 | 1.5 | ⑨ 2.1 | |
| 8 語学 | ② 14.5 | ⑨ 0.7 | 2.9 | 1.7 | 1.5 | 2.4 | 2.0 | 1.2 | 4.6 | 0.3 | 2.9 | ② 16.8 | ⑧ 2.7 | |
| 9 文学 | ⑥ 3.1 | ② 19.6 | ③ 13.0 | ③ 16.2 | ① 36.4 | 10.6 | ① 35.5 | ② 21.4 | ① 52.2 | ① 54.1 | ③ 7.8 | ① 28.1 | ② 21.0 | 小説を含む |

○数字は順位を表わす。

学生用図書の購入が早くなります

従来指定図書、教養図書などの学生用図書は、購入、整理を経て閲覧室に並ぶのは、後期に入ってからであった。このような状態では、前期には、前年度に入った図書を利用するほかない。なぜそのようなのかといえ、大学予算が評議会の承認をえて図書館に配布されるのは、例年6～7月になる。それから教官に指定・推せんを依頼し、提出されたリストを照合・調整のうえ、書店に発注し、納品された図書を支払・登録・整理などのプロセスを経て閲覧室に並べるとなると、どんなに急いでも9～10月になってしまう。

そこで、このたび本館では、前年度中に教官から次年度の授業計画にそった図書の指定・推せんをうけておき、新年度予算決定後ただちに図書の受入・整理業務を開始して、できるだけ早く利用できるようにすることになった。できれば夏休み前にも大半の図書を閲覧室に出したいと思っているので、教官各位の御協力をおねがいしたい。

学生希望図書 一本館一

昨年4月から12月までの間に、本館2階閲覧室にある希望図書箱にリクエストされた図書は次のとおりである。既に配架済である。

| | | | |
|-----------------------|------------------------|--------|-----|
| ベケット戯曲全集 | 安堂 信也 編 | 白水社 | 昭42 |
| アーサー・ミラー全集 1～3巻 | ミラー, A. | 早川書房 | " |
| 現代社会をみる眼 | 飯坂 良明 | 日本放送協会 | 昭43 |
| 未解放部落の実態 | 部落問題研究所 | 全右 | 昭40 |
| 森の生活上, 下 | ソーロー, H. D. | 岩波書店 | 昭42 |
| 新しい政治経済学を求めて | 神吉 三郎 訳 | 岩波書店 | 昭43 |
| 英文学における浪漫主義 | 都留 重人 監修 | 頸草書房 | 昭43 |
| 桶物語・書物戦争 | 大和 資雄 | 研究社 | " |
| 体系マーケティング・マネジメント | スウィフト, J. | 岩波書店 | " |
| 基本的人権 1～5巻 | 深町 弘三 訳 | 干倉書房 | 昭41 |
| 高漫と偏見, 説きふせられて | 森下 二次也 吉 | 東大出版会 | 昭43 |
| (カラー版世界文学全集9) | 荒川 祐吉 | 河出書房 | " |
| 自然教論(数学ライブラリー3) | 東大社会科学研究所 | 森北出版 | " |
| 高等代数学 1 | オースティン | 岩波書店 | 昭27 |
| 日本における歴史学の発達と現状 I, II | 阿倍 知二 訳 | 東大出版会 | 昭40 |
| 数学から超数学へ | 河田 敬義 | 白揚社 | 昭41 |
| 常微分方程式論 上(数学叢書5) | 秋月 康夫 | | |
| 集合論とその論理 | 国際歴史学会 | | |
| 幾何学序説 | 日本国内委員会 | | |
| 材料科学入門 1～3巻 | ケーゲル, E., ニューマン, J. R. | | |
| ガロアの夢: 群論と微分方程式 | はやしはじめ 訳 | | |
| | コディントン・レヴィンソン | | |
| | 吉田 節三 訳 | | |
| | クワイン, W. V. O. | | |
| | 大出 晃 訳 | | |
| | 弥永 昌吉 | | |
| | ウルフ, J. | | |
| | 永宮 健夫 監訳 | | |
| | 久賀 道郎 | | |
| | | 吉岡書店 | " |
| | | 岩波書店 | " |
| | | 岩波書店 | 昭43 |
| | | " | " |
| | | 日本評論社 | " |

指定図書貸出期間を1週間に延長 一本館一

前号で指定図書の利用について、ひろく学生諸君に訴えたが、このたび次のように貸出期間を延長することになった。これによって学生諸君が指定図書をより活用することを望みます。

1. 貸出期間 1週間
2. 始期 昭和44年4月1日より

五万分の一地形図揃う

本館では、昨年末、旅行案内書「ブルー・ガイドブックス」全セットを購入したところ、非常に利用者が多かったので、今般、国土地理院発行の五万分の一地形図全セット1,257枚を購入することになった。品切などで入手できないブロックもあるが、3月中に閲覧室に地図ケースを設置し、大半は利用できるようにする。ただし「禁帯出」

教官寄贈図書

本館

- | | | | |
|--------------------------|--------|------|-----|
| 金子基照(文助教授) | | | |
| 明治前期教育行政史研究 | 金子基照著 | 風間書房 | 昭42 |
| 中野貞一郎(法教授) | | | |
| 訴訟関係と訴訟行為(2冊) | 中野貞一郎著 | 弘文堂 | 昭41 |
| 布目潮風(教教授) | | | |
| 花ひらく長安(世界の歴史4) | 布目潮風著 | 集英社 | 昭43 |
| 隨唐史研究(東洋史研究叢刊220) | " | | |
| 海野一隆(教教授) | | | |
| ボルネオの人と国土 一原住民の村を訪ねて一 | 海野一隆著 | 古今書院 | 昭43 |
| 佐藤清郎(教助教授) | | | |
| チェーホフの言葉(人生の知恵3) | 佐藤清郎訳編 | 弥生書房 | 昭43 |
| 若きゴーリキー | " 著 | 筑摩書房 | 昭43 |

理学部図書室

- | | | | |
|-----------------|--|--------|--------|
| 千原秀昭(理教授) | | | |
| 物理化学実験法 | 千原秀昭編 | 東京化学同人 | 昭43 |
| 新村陽一(理教授) | | | |
| 日高人才(理助教授) | | | |
| 無機化学 上:その概念とモデル | B. E. Douglas, 共著 D. H. McDiell 新村陽一, 日高人才共訳 | " | " |
| 神谷宣郎(理教授) | | | |
| 小関治男(理助教授) | | | |
| 続生物物理学講座 第1~8巻 | 日本生物物理学会編 | 吉岡書店 | 昭43~44 |

産研分館

- | | | | |
|-----------------|--|------|-----|
| 安藤喬志(産助手) | | | |
| 例解NMRチャートの読み方 | Bible, R. H. Jr 著 湯川泰秀, 安藤喬志訳 | 広川書店 | 昭43 |
| 都野雄甫 | | | |
| 分子軌道法, 有機化学への応用 | A. Streitwieser, Jr 著 都野雄甫訳 | " | " |
| 有機反応速度論 | J. Leffler, E. E. Grunwald 共著 都野雄甫訳 | " | " |
| 湯川泰秀(産教授) | | | |
| 有機化学 2 | D. L. Cram, G. S. Hansmond 共著 湯川泰秀等訳 | " | 昭42 |

資料紹介(4)

本館所蔵

Ulrich's international periodicals directory; a classified guide to
a selected list of current periodicals, foreign and domestic. 11th
ed. Ed. by Eileen C. Craves.

N. Y., R. R. Bowker, 1965-1966. 2v.

Contents: v.1, Scientific, technical & medical.

v.2, Arts, humanities, business & social sciences.

本書は件名によって分類された世界の雑誌リストである。雑誌の選択、その他、雑誌の参考図書として貴重な資料であるが、11版から、10版の書名に“International”を冠する一方、上記の2分冊に分かれ、大幅な改訂が加えられた。収録数は第1巻が、12,000第2巻が、16,000タイトルである。各雑誌は件名によって分類され、アルファベット順に配列されている。各誌の記載事項は、書名、副書名、第1巻の刊行年、刊行回、価格、出版社と出版地、編者、索引、その雑誌の特色ある事項、その他、補遺、特別号の刊行、テキストが一言語以上である場合や要旨が数カ国語で記載されている場合は、これも記載の対象となっている。本書の特色は以上のほかに、各雑誌の抄録誌と索引誌が収録されていることである。

11版では、少数の政府出版物は収録されたが、年鑑、モノグラフ、シリーズ、不定期刊行の雑誌は、10版に引き続いて除外されている。これらは検討中で、12版以降には収載されるものと思われる。

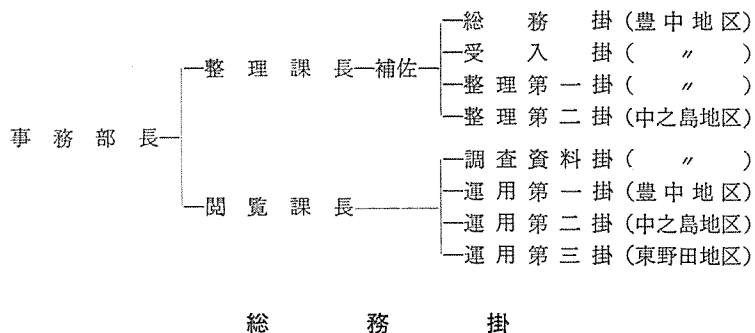
また、巻末には、10版以降の廃刊誌がのっているほか、附録として、第1巻には、アメリカ標準化協会の雑誌名省略法、索引誌、抄録誌を利用するための「件名」索引、第1巻収載誌のアルファベット順の索引、第2巻には、第2巻収載誌の国別（合衆国を除く）索引、第1—2巻共通のアルファベット順の索引が収録されている。

大阪大学学術雑誌目録—欧文編— 3月刊行

かねてから本誌でその刊行を予告し、また各方面から期待されていた上記の目録が、いよいよ3月に刊行されることになった。かねてから全学の学術雑誌の所蔵状況と、円滑な運用をはかるために所蔵目録の作成が強くのぞまれていたのであるが、図書館職員および関係職員の協力によって漸やくその目的を実現することができた。いろいろの事情から最初の刊行予定より大分遅れたが、内容的には正確さを重視し、細部に至るまで眼を通して編さんしたつもりである。戦後はじめて刊行される大阪大学の学術雑誌目録であり、利用者の皆さんに大いに活用していただきたい、切にのぞんでいる。

事務部の紹介 (1)

図書館の事務部は、現在2課8掛からなる。本号では、まず総務掛の事務について述べ次号より順次、各掛の業務内容を連載することにした。



総務掛とは——図書館の経営管理に関する事務を行なう掛であって、掛長以下8名で担当している。分担は庶務事務3名、会計事務2名、自動車運転1名、清掃作業など2名で、事務室は本館3階（内線2126～2128）にあり、部課長室に隣接している。

主な仕事は、①図書館間の事務の連絡 ②図書館委員会その他会議の準備 ③職員の勤務、研修および福利厚生に関する事務 ④昇給・昇格の上申 ⑤調査統計資料の収集整理 ⑥予算の編成と執行 ⑦施設・設備の維持管理 ⑧備品・消耗品の購入 ⑨文献複写料の収納 ⑩給与・旅費の計算と支払 ⑪文書の接受・発送・保存 ⑫その他学内図書館間の圖書の運搬から館内の清掃など、いわば図書館活動を円滑に運ぶための縁の下力持ちである。

議 会

—近畿地区国公立大学図書館協議会研究集会—

43.11.14(木) 10.00a.m.—4.00p.m. 於 中之島分館

本学より運用第 1, 2, 3 の各掛長が出席した。

(午前の部)「開架図書管理と構成」——大府大、神商船大、京大の3館より実情の報告と問題点が発表され、各大学より質疑がされた。

(午後の部)「指定図書管理と構成」——大市大、京教大の2館より報告があり、京教大よりは文部省より配分された「指定図書購入費」による実施について、大市大よりは大学独自の予算での実施について各問題点が指摘され、討論に入ったが、結局教官が指定図書の意味を理解していない状態でこの制度を導入したために所期の目的が十分に果し得たとは言い難いうらみがある。この制度の成功は何よりも教官の意欲と実施方法の協力がなければならないが、それをいかにして啓発するかにキーポイントがあることが指摘された。この研究集会は発足以来多くの成果をあげてきたが、テーマの選定や集会運営の方法など、再検討をのぞむ声もきかれた。

——豊中地区運営委員会——

44.1.30(木) 4.00~6.00p.m. 於 本館会議室

①運営委員長改選 1月末で任期が切れる今堀委員長(教)の後任に、理学部千原教授を選んだ ②教養図書の選択 予算の配分については、総額の50%を指定図書の性格をもたせて、教養部教官が推せんする。30%は教養図書の性格をもたせて選択委員会で選択し、残りの20%は総記類(年鑑、事典、人名録、要覧、地図等)の購入に当て従前通り図書館で選択する。教養部教官の推せんを前年度にする。選択委員会は作るが、委員の構成メンバーは、事務部で具体案を作り次回の運営委員会にはかる。③指定書の利用状況 現在では利用者が非常に少ないので、図書館としては実情により貸出期間の延長を検討した結果1週間の貸出をみとめることになった ④関経連よりの寄贈新聞 昭和39年度から毎年度末に関西経済連合会から一年遅れの外国新聞(13種)の寄贈をうけているが、殆んど利用者がいないので経済学部と社会経済研究所との間で協議の結果、不要として処分した。⑤学生問題と図書館 12月10日の図書館一時的封鎖およびその後における図書館の対策について、事務部長から詳細な報告があり、現状では、図書館業務の多少の渋滞は止むを得ないむね了承した。

——中之島分館運営委員会—第31回——

44.1.21(火) 4.00~5.20p.m. 於 会議室

①昭和43年度中之島分館維持費使用状況 年度途中であるが、見込残の使途については図書館よりの使用案を承認、又ゼロスクについては分館長に一任と決定 ②第39回日本医学図書館協会総会 去る43.11.7~9 東京慈恵会医科大学で開催、テレックスの設置促進について強い要望があった旨報告 ③学生指定図書の運用 図書館が提出した運用についての案は暫定的にこのまま続け来年度複本の問題を討議する時改めて再検討することとした。

——工学部分館運営委員会——

43.12.20(金) 3.00~5.30p.m. 於 大会議室

①新図書館の資格面積改正に伴う設計変更 資格面積の算定方式が変更され、面積が約1.6倍に増加したので改訂図が提案され、下記の諸点について討論し、改訂図面通り承認した。

a)総面積2,750m²、3階建、閲覧座席数約250席、収容冊数約15万冊、視聴覚室約120席、b)完全開架式とし、第1閲覧室はモデュラーシステムとする c)学生自習室として、第3閲覧室をあてる d)視聴覚室は設備を充実し、多様な目的に利用できるようにする e)特別閲覧室を確保し、個人閲覧に利用する f)将来の情報処理にそなえ文献センター室を確保する ②新図書館の設備充実 工学部40周年を記念して募金している寄付金(目標額5億円)のうち、10%を共通施設として、図書館の設備充実に配当してもらうよう、働きかけたい旨提案があり、計画案が出され要望書を関係者に提出することになった。

——産研図書委員会——

44. 1. 22(水) 1.00~2.00p.m. 於 集会室

①来年度の貸出券の発行 従来の主任10, 教職員8, 学生6の数について再検討の結果, 教職員, 学生の区別をなくし, 枚数を4枚にした。しかし主任券は, 研究室全体が使用する未製本雑誌一夜貸出券という性質上からと, 部外者の貸出にもあてられるので, 現状どおりとした。

②吹田地区内図書室の相互利用 昨年9月から暫定的, に地区内では共通閲覧券を発行しないで, 各館の貸出券を相互利用にも使っている。12月現在, 産研と工学部との利用数はほぼ同じであった。今後この方法を続けるか, 何らかの制限を加えるかを各研究室で次回までに検討することを決めた。

■■■■■■■■■■ 日 程 ■■■■■■■■■■

- 1月10日(金) 日米大学図書館会議組織委員会 第2回(東京大)
 " " 国立大学図書館協議会常務理事会 (")
 " 16日(木) 図書館維持費調査研究特別委員会 第2回(京都教育大)
 " 30日(木) 豊中地区運営委員会(本館)
 2月12日(水) 近畿地区国公立大学図書館協議会参考図書委員会 第2回(大阪外大)
 " 14日(金) 図書館維持費調査研究特別委員会 第3回(中之島分館)
 " 18日(火)~21日(金) 文部省主催ドキュメンテーション講習会 第8回(京大楽友会館)
 " 27日(木) 図書館業務の機械化に関する合同研究集会 (")
 3月11日(火) 附属図書館委員会(本館)
 3月中旬 図書館維持費調査研究特別委員会 第4回(神戸商船大)
 " " 近畿地区国公立大学図書館協議会参考図書委員会 第3回(大阪教育大)
 " 25日(火) 国立大学図書館協議会常務理事会(東京大)
 4月上旬 図書館維持費調査研究特別委員会 第5回(滋賀大)
 " 21日(月) 国立大学図書館協議会理事会(東京大)

■■■■■■■■■■ 人 事 ■■■■■■■■■■

新委員長に千原教授——豊中地区運営委員会

豊中地区運営委員会では, 1月30日今堀宏三委員長(教)の任期満了に伴う後任に千原秀昭教授(理)を選んだ。任期は2月1日から1年間。

職 員 の 採 用

本 館(運用第一掛) 高 木 紘 子 (2月1日付)
 中之島分館(調査資料掛) 木 下 夏 子 (2月16日付)
 " (運用第二掛) 和 気 久 子 (")

職 員 の 退 職

中之島分館(運用第二掛) 北 村 久 子 (2月20日付)

来 訪 者

| | | |
|-----------|-----------|--------------------|
| 11月12日(火) | 青野伊予児 | 東洋大学教授(図書館学) |
| " " | 田保橋 彬 | 文部省情報図書館課大学図書館係長 |
| " 13日(水) | 岩崎 節子 | " 教育施設部計画課専門職員 他2名 |
| " 21日(木) | 有地 成光 | " " " 資料係長 他1名 |
| 12月2日(月) | 佐竹 大通 | 東京大学附属図書館事務部長 |
| " " | 田辺 広 | " " 整理課長 |
| " 6日(金) | 芳賀 勝義 | 文部省人事課任用班任用第二係長 |
| " 10日(火) | アルベルト・ボール | 大阪アメリカ文化センター館長 他2名 |
| " " | 藤条 泰磨 | 九州大学医学部事務長 |
| " 23日(月) | 男沢 淳 | 名古屋大学附属図書館事務部長 |
| 1月21日(火) | 高 雄済 | 韓国図書館協会理事(明知大学) |
| 2月6日(木) | 伊部 一俊 | 九州芸術工科大学庶務課長 他1名 |

電話番号変更のお知らせ

2月26日から池田局より豊中局に切替えられ、下記のとおり番号も変わりましたのでお知らせします。

豊 中〔068〕56—1151 (大代表)

夜間 休日用 56—1053

あとがき 編集委員の交替などで館報の発行が遅れ、No. 1/2 の合併号となったことをお詫びいたします。

なお、館報をますます充実したいと思いますので、原稿、御意見等編集委員までどしどしお寄せ下さい。

編集スタッフ 編集兼発行人 中野六郎 委員 藤井和夫(長) 山口慎一(副)
 岩井勇 中川憲次 加島美代子 レポーター 徳村泰弘
 田中久文 町井照子 村山祥子